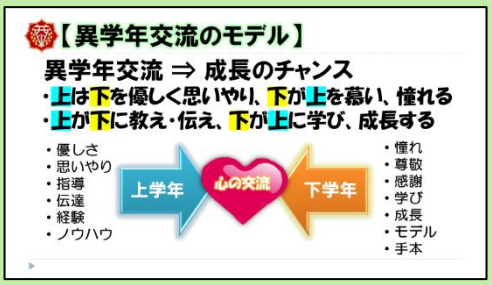
はまなし

鶴岡市立西郷小学校　学校だより
令和５年度 第７号（２０２３．９．２２発行）
～家庭・地域とともにある西郷小学校

実りの秋を迎え、黄金色の稲穂のじゅうたんが風にゆれる季節となりました。記録的な猛暑・残暑のために、鶴岡市学童陸上競技大会や持久走大会が中止となり、子どもたちにはさみしい思いをさせてしまいました。この暑さの影響で学校田の稲刈りも１０月６日に早まりました。また先日は、新型コロナウィルス集団感染のため、６年生が３日間謹慎措置を取りました。まだ感染は続いていますので、ご留意ください。これからは待望の収穫シーズンとなり、学校田や畑では作物の取入れが始まります。皆様におかれましては、引き続きご理解・ご協力くださいますようお願いいたします。

西郷っ子の心と心かよい合う異学年交流
全校で遊ぼう改革

■今年度、西郷小学校では【異学年交流】を大切にしています。異学年交流とは、左図のように学年の異なる子ども同士が、ふれ合う場面をさしています。ですから、交流場面は、朝の登校班に始まり、休み時間の自由遊び、昼の清掃、委員会活動やクラブ活動……と実に多様です。地域の方々にお世話になっている放課後の「おおぞら教室」も、各地区の「子ども会」も、もちろん異学年交流です。異学年交流は、子どもたちの生活の中でありふれたものです。



では、なぜ【異学年交流】を大切にするのでしょうか？それは、異学年交流を成長のチャンスと考えているからです。異学年交流は、自尊感情やコミュニケーション力、協調性、意欲等のたくさんの恩恵を子どもたちに与えることがわかっています。自尊感情とは「学びのスパイラルアップ」で起点としている力であり、コミュニケーション力とは今後、少子化が進む本校にとって欠かせない力です。そのため【異学年交流】を重点に掲げ、「全校で遊ぼう改革」に取り組むことにしたのです。ポイントは「心を伝え合う」こと、スローガンは「６年生に憧れる学校」と決めました。いつか実現させたいと願い、温めてきた目標です。

全校ドッジボール大会（9/5 火）⇒ 全校集会：教頭講話（9/20 水）

■9月5日は「全校で遊ぼう」の日。体育委員会企画による「全校ドッジボール大会」の予定です。みんなが楽しみにしていることはわかっていました。何回も体育館の暑さ指数を測った上で、「水筒を持参して、さらにできるだけ短時間で終えるようにしましょう。よし！やりましょう！」と実施を決断。

待ちに待った全校ドッジボール大会の始まりです。試合前の作戦タイムでは、各チームの6年生が中心になって内野・外野を分けていきます。でも、肝心の勝つための作戦を相談する気配がないのです。しびれを切らして「勝つための作戦って立てないの？」と話しかけると、6年の佐藤くんは胸を張って、穏やかに、だけどハッキリとこう言ったのです。

「……校長先生、作戦とは勝つためのものではありません。楽しむためのものなのです……。」

やられた…と思いました。見ると、それまでは気付きませんでしたが、各チームの6年生のまわりには、下級生の楽しそうな笑顔が広がっているではありませんか！そうです。勝つことが目的ではないのです！目的とは、楽しむこと・もっと仲良くなること・全校の絆を深めることなのです。質問に答えたのは、たまたま佐藤くんでしたが、おそらくどの6年生に尋ねても同じ答えが返ってきたはずです。さらによく見渡すと、進行役で忙しい6年生に代わって、5年生が1年生の面倒を見ている様子が飛び込んできました。なんとすばらしい光景でしょう。異学年交流を通じて、子どもたちの心が豊かに育ってきている！「6年生に憧れる学校」の実現が、もう手の届きそうなところまで近付いている！…と実感しました。ひょっとすると、この子たちは長年の夢を叶えてくれるのかもしれない……そう思い、そして、願っています。

■20日の全校集会では、教頭先生が「全校ドッジボール大会：成功の理由」をテーマにお話してくださいました。教頭先生は、①6年生のリーダーシップ、②1～5年のフォロワーシップ、③体育委員のがんばり…だと価値付けてくださいました。そして、次の言葉で講話をしめくくりました。「『全校で遊ぼう』はもっと続きます。みなさんの協力・団結する心や絆（きずな）をもっと豊かに育てて、集大成である『大なわとび大会（1月）』を迎えましょう！」 *To be continued!*